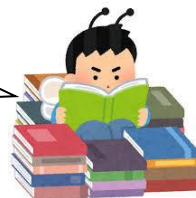


今だから読もう！
読書の中に、感想文用の本を入れてみよう。



第66回 青少年読書感想文全国コンクールの課題図書 今年は以下の3冊です。

『天使のにもつ』 童心社 ¥1,430

いとう みく (著), 丹下 京子 (イラスト)

「頼んでまでして、なんで仕事しなきゃなんないの？しかもタダで」そんな中学2年・斗羽風汰が職場体験先を選んだのは、保育園だった。「子どもと遊んでりゃいいってこと？ありかも」本当に大丈夫なのか、斗羽風汰。



『11番目の取引』 鈴木出版 ¥1,760

アリッサ・ホリングスワース (著), もりうちすみこ (翻訳)

アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり、心の拠り所だった伝統楽器ルバープが奪われた！ 買い戻すには1か月以内に700ドルが必要だ。サミは友だちの助けを借りて自分の持ち物で物々交換を始める。希望と友情の物語。



『平和のバトン： 広島の高中生たちが描いた8月6日の記憶』

広島平和記念資料館 原爆資料館= 弓狩 匡純 (著) くもん出版 ¥1,650

原爆が投下されてから、75年近くになろうとしています。「このままでは、原爆のことが忘れられてしまう」と、勇気を振りしぼって話しはじめた被爆者の声を、そして見た光景を、美術を学ぶ高校生が絵にして記録する「次世代と描く原爆の絵」プロジェクトが、2007年にスタートしました。証言者と高校生が何度も会って、一年をかけて一枚の絵にしています。戦争も、原爆も、高校生にはまったく想像ができない状況であるがゆえ、証言者は絵にすることの難しさに何度も直面します。また、事実を正確に描くことが求められるので、高校生が勝手な想像で描くことができません。それでも高校生には知らないこと、わからないことだらけです。また証言者は、体験が衝撃的すぎたがゆえ、覚えていないこともたくさんあります。まさに二人三脚で、絵が描かれていくのです。これまでに、40名の証言者の話を、111名の高校生が134点の絵にしてきました。この本では、その中から4組の証言者と高校生を取材しています。証言者と密に接することで、平和な広島で今を生きる高校生たちが戦争や原爆を見つめなおす姿は、まさにバトンが手渡された瞬間なのです。

